



感謝状を受け取る大野管長



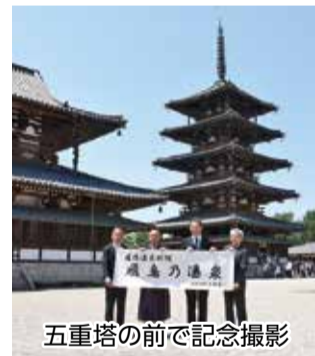
書をお披露目する(左から)小城町長、大野管長、野志市長、前園教授

新施設「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」に掲げる銘板の書 正岡子規など縁に法隆寺でお披露目式

今秋、愛媛つなぐえひめ国体・えひめ大会の開催までの完成を目指し、整備を進めている「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」の銘板の書のお披露目式が5月22日、法隆寺で行われました。



書への思いを話す大野管長



五重塔の前で記念撮影

現在、新たな観光拠点として椿の湯横に「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」の整備が進められています。奈良県斑鳩町と松山市の間では、正岡子規が詠んだ俳句や、法隆寺を創建し道後温泉来浴伝説がある聖徳太子を縁として平成28年2月、法隆寺で大野玄妙管長と日野西光専門跡立会のもと、観光・文化交流都市協定を締結しました。その縁もあり、今回、飛鳥乃湯泉

の銘板の書を法隆寺の大野管長に揮毫いただきました。式には野志市長、斑鳩町の小城利重町長、飛鳥時代の発掘調査に数多く携わっている奈良芸術短期大学の前園実知雄教授も出席。野志市長は大野管長から直接桐箱を受け取り、ひもをほどいて「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」と書かれた書をお披露目しました。大野管長の書への思いを聞き、野志市長は「管長に新施設の銘板の書を揮毫いただき、大変光栄です。斑鳩町と今後も長く交流し、結びつきを深め、お互いの地域活性化につなげていきたい」と述べ、大野管長に感謝状を手渡しました。

昔からの縁が今も続いている
聖徳太子の時代から松山市の皆さんとおつきあいがあるなかで今もご縁が続いており、本来にありがたいことです。多くの人に親しまれてきた道後温泉を思い浮かべ「子どもからお年寄りまでどなたでも読めるよう、字を崩さず丁寧に」と考えながら書かせていただきました。

昔からの縁が今も続いている



法隆寺 大野玄妙管長

今後、受け取った書を見直し、ステンレス加工して、幅1メートル80センチ、高さ40センチの銘板に仕上げ、新たな温泉施設の入りに正面に掲示する予定です。

主な内容

- 平成29年度 水防工法訓練 …… 2面
- 第42回市民大清掃 …… 3面
- 特集 国民健康保険 …… 4・5面
- 国体リハーサル大会や関連イベントが続々開催!! …… 6面
- 学校花壇コンクール …… 12面
- 市民ガイド …… 7~11面

発行：松山市役所
編集：総合政策部シティプロモーション推進課
毎月1日・15日
☎948-6705 ☎934-2578
HPhttp://www.city.matsuyama.ehime.jp/



完成予想図

この飛鳥乃湯泉は、西暦596年の聖徳太子の来浴や西暦61年の女性の帝、斉明天皇の行幸などの物語や伝説がある飛鳥時代をイメージした湯屋をコンセプトにしています。特にその中庭は、聖徳太子が来浴されたことを記念して湯の岡に建てられたという温泉の碑にうたわれている「温泉の周囲には椿の樹が茂って温泉を取り囲み、その壮麗なことは、まるで寿国のようなものである」との情景を松山市の市花である「椿の森」として表現したいと思っています。今回、施設の銘板を法隆寺の大野玄妙管長に揮毫いただき大きなお力添えをいただきました。

松山市長 野志 克仁

かつおトーク



道後温泉は、松山市を代表する観光地で、そのシンボルの道後温泉本館は国の重要文化財で、ミシユラン・グリーンガイド・ジャポンでは最高評価の3つ星を獲得するなど、大切な本市の宝です。一方、新たな活性化の起爆剤として、市営では33年ぶりに温泉施設「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」が9月にオープンします。道後温泉本館は、道後湯之町初代町長の伊佐庭如矢さんが123年前に「ごつせやるなら、よそがまねの出来ないものを作ってこそ、そのことが物を言う」との強い信念で改築したといわれています。この飛鳥乃湯泉にかける私の思いも同じです。

道後温泉別館 飛鳥乃湯泉

温泉を取り囲み、その壮麗なことは、まるで